

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 4 月 18 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 8名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

※事業所記入

事業所番号	3870102153
事業所名	グループホーム御幸の杜
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	古寺 正洋
自己評価作成日	令和 5 年 4 月 12 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1.思いやり優しく親切にします。 2.明るく楽しく仲良くします。 3.心のやすらぎが得られる</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①施設する時間を減らし、入居者様にとって開放的な暮らしが送れるようにする。→職員の見守りが可能な時は、散歩や庭先での草花の手入れ時に施設せず以外からの空気を取り入れている。 ②コロナ禍で家族との交流は、十分に行うことが出来ず、利用者様には寂しい思いをさせてしまいましたが、外出行事が出来ませんでした。施設の中で利用者を中心としたレクリエーションを実施しました。 ③毎月、1Fと2Fのミーティングの開催は出来ているが、施設全体でのミーティングの開催は出来ていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内城北部の国道から少し入った住宅街に事業所は立地し、周辺にある民家と調和した外観となっている。事業所には分かりやすい看板が設置され、通行人が事業所に立ち寄り、相談を受けたこともある。また、法人の代表者は地域との良好な関係を構築し、事業所の避難訓練には近隣住民の参加協力があり、避難の課題などを話し合うとともに、災害発生時等に、管理者は近隣住民から「何かあれば、声をかけてほしい」と言われるなどの協力体制も整えている。職員の入れ替わりの多い時期もあったが、職員は「代表者や管理者がいつでも気にかけてくれて相談しやすいと感じており、安心して意欲を持ちながら働くことができています。中には、長年入居している利用者もおり、高齢化等に伴い、状態の変化もあるものの、好きなことを継続しながら、職員は利用者が心地良いと感じ、自分のペースで生活を送れるよう心がけたサービス提供に努めている。</p>
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	ケアマネが中心となり、ケアプラン更新時等に直接、利用者から聞き取りを行ったり、毎月のミーティング時に職員から利用者の思いを確認したりするなどしている。	○	/	○	管理者と職員は、利用者や家族から、「どのように暮らしていきたいか」などの思いや意向を聞くとともに、出された意見等を介護計画の目標やサービス内容に反映させている。また、意向を伝えることが困難な利用者には、家族のほか、今まで関わってきた関係者等から、生活歴や今までの暮らし方、好きなことなどを聞き取ったり、確認をしたりしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日頃より、自分が利用者の立場だったら・・・という思いで検討するように職員間で話し合っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	十分ではないと思うが、ケアプラン送付時に家族様に意見を聞くようにしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプランを活用し、職員が共通認識を持てるようにしている。記録はタブレットを活用して記録の時間を短縮している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日頃より、自分が利用者の立場だったら・・・という思いで検討するように職員間で話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に希望・要望等を伺い、安心して生活して頂けるよう工夫している。	/	/	○	入居前に、管理者は利用者や家族と面談を行い、今までの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりなどの聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員等から、サービス利用に至るまでの経過や利用者の状況などの情報を得ている。また、聞き取った情報は、利用者毎の情報シートに記載し、職員間で情報を共有している。さらに、日々の生活の中で、新たに把握した情報を追記するとともに、定期的に、ユニットリーダーがシートを情報を確認して更新をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入所前に看護師とケアマネが面会し、利用者・家族より聞き取りを行っている。入所してからも定期的に職員と協力して確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	毎日の記録から把握するようにしており、スタッフ間で改善すべき点があれば、集まれる職員だけで話し合い、直ぐに対応するようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の視点で物事を考えるようにしている。	/	/	○	把握した情報をもとに、「利用者本人が何を求めている、何が必要なか」を本人の立場に立ち、職員間で検討をしている。意向を表すことが困難な利用者も、チームで話し合うことで、職員の視点が偏らないよう努めている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	本人の視点で物事を考えるようにしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	理解、共有が出来ている。	/	/	/	各ユニットの計画作成担当者が、利用者や家族から意見や要望を聞くほか、月1回ユニット毎に実施するミーティングの中で話し合い、意見やアイデアを反映しながら介護計画の原案を作成し、介護支援専門員が確認をしている。また、介護計画の更新時にも、家族の意見を聞くとともに、記録に残すことができています。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	職員間での状況確認は出来ているが、記録に残せていない時がある。	○	/	/	
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	記録できている時と出来ない時がある。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	個別に記録を行っているが、工夫やアイデアを記録できていない時がある。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	居室担当者を中心として理解、共有が出来ている。	/	/	/	○ 利用者一人ひとりの介護記録等を職員がいつでも確認できる場所に配置するとともに、職員が担当する利用者等の介護計画の課題やサービス内容の把握をしている。事業所には介護ソフトが導入され、タブレット等を活用して、介護計画に沿ったサービス内容の実施の有無などを記録に残し、職員間の情報共有や確認をしやすいになっている。管理者は、「サービスの実施状況や利用者の様子などの詳細な記録が残っていない」と感じていることもあり、今後は記録方法の勉強会を実施したり、記載内容を職員間で話し合ったりするなど、より充実した記録が残ることを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	職員間での状況確認は出来ているが、記録に残せていない時がある。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	出来ている。	/	/	/	○ 介護計画は、6か月に1回を基本として、見直しをしている。月1回、利用者毎の担当職員を中心に、他の職員の意見を聞きながら、利用者の現状確認を行い、モニタリングを実施している。また、利用者の状態に変化が生じた場合には、利用者や家族等を交えて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	全員分の確認は行えていない。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	見直しを行い、プラン変更している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月のミーティングを行い、緊急時はリーダー・ケアマネ・管理者・参加できる職員で開催している。	/	/	/	○ ユニット毎に、月1回ミーティングを行い、利用者の現状や課題などを話し合うとともに、職員間で情報を共有している。会議には、なるべく多くの職員が参加できるように、事前に開催日時を調整するなどの配慮をしている。また、会議に参加できなかった職員は、タブレット内にある申し送り事項の欄のほか、会議録等を確認し、職員間で共有をしている。さらに、早急に検討すべき事案は、その日出勤職員で話し合うとともに、話し合った内容を記録に残し、他の職員は記録を確認するほか、口頭でも伝達をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員が自由に発言できるように、司会のケアマネが配慮している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるように開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	開催日時は事前に職員に周知し、可能な限り全てのスタッフが参加出来るようにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	管理者・ケアマネが参加しての朝・夕方の引継ぎを行い、必要な情報は口頭・引継ぎノート・日誌を活用し、全スタッフに伝わるように工夫している。	/	/	/	○ 日々、朝夕の申し送りを実施し、必要事項をタブレットと口頭で確認をしている。また、職員は出勤時等に、タブレット内の伝達事項を確認すると、「既読」のチェックが入るようになっており、管理者は確認状況を確認するなど、伝達漏れがないようにしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	×	その日したいことを把握出来ていない。	/	/	/	○ 自己決定や選択ができる利用者には、毎日の着る衣服のほか、その日したいことなどを選んで決めてもらうように努めているが、管理者は、「一部、職員が都合で決まってしまう部分もある」と感じている。また、花の好きな利用者や担当職員と一緒に居室に花を飾ったり、庭で水やりなどの花の世話をしたり、利用者に聞いて、好みの音楽をフロアで流すなど、様々な工夫をして、活き活きとした言動を引き出しながら、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	ADLがほぼ、自立の利用者には出来ているが、介助がいる利用者には出来ている時と時間が足りずに出来ていない時がある。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	ADLがほぼ、自立の利用者には出来ているが、介助がいる利用者には出来ている時と時間が足りずに出来ていない時がある。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	声掛けは出来ている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の表情や仕草から、職員が読み取り支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声をかけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	ミーティング時に社長・管理者から利用者の人格を尊重し、人生の先輩として常に敬うように話をしており、職員も意識して業務に当たっている。	○	-	○	○ 日頃から、管理者は職員に対して、人権や尊厳などの周知徹底や理解促進に努めており、適切な言葉づかいのほか、「さん」付けをして利用者と呼ぶことができるようになってきている。管理者は、「利用者に対する言葉づかいの乱れが、職員間のチームワークの乱れに繋がる」と考えており、職員は利用者に対する尊厳の念を持ちながら、適切な支援に努めている。また、居室を利用者のプライバシーのある空間と認識し、入室時に職員はノックや声かけをしてから、入室することができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴は、可能な限り同性介護とし、排泄はバスタオル等を用いるなど、羞恥心に配慮したケアを行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への出入り時にはノックをし「失礼します」と声を掛けるようにしている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時に職員に教育している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	入所前にフェイスシートを参考にしている。足りない情報は家族様から聞き取りを行い把握している。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの性格や関係性を把握し、配席の考慮をしたり、トラブルが起これば早期に職員が間に入ったりするなどの対応をしている。中には、世話好きな利用者もあり、他の利用者へ励ましの声かけをするなど、孤立防止や利用者同士の良好な関係に力を発揮してもらったこともあり、職員は温かく見守りをしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	入所前にフェイスシートを参考にしたり、家族様から聞き取りを行ったりしているが、まだ全員分把握出来ていない。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらった場面をつくる等)。	○	職員は世話好きな利用者のことを理解しており、一人で過ごすことが多い利用者に声を掛けてもらうなど、職員は助けてもらっている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者の周りには常に職員が存在があり、トラブルに発展しそう時は上手く職員が介入している。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所前にフェイスシートを参考にしている。足りない情報は家族様から聞き取りを行い把握している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族とは会っているが、友人や知人等とは会えていないが、家族から馴染みの場所の写真を持ってきてもらい、話を聞かせてもらっている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	利用者数名ではあるが、希望された利用者様が短時間でも散歩等に出掛けられるよう支援している。	△	-	○	コロナ禍において、以前のように外出できない日々が続いていたが、日頃から外気浴をしたり、庭に出て花の手入れをしたりするなど、少しでも屋外に出て、季節を感じながら、気分転換を図れるよう支援している。また、今年の春には、近隣にある川沿いの桜を眺めながら、お弁当を食べることができ、利用者に喜ばれている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ禍で面会を禁止したこともあり、家族や地域の方との交流はほとんどなく、消防訓練等で地域の応援を頼んだりしたことである。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	家族と離れて暮らす寂しさを理解することや、制約された施設での不自由な生活を理解し、安心して落ち着きのある生活を送って頂けるように支援している。	/	/	/	利用者一人ひとりのできることやできそうなことを記録や話し合いをして把握し、職員は手や口を出し過ぎず、できることやできそうなことは利用者自身にしてみせ、見守りやサポートに徹している。また、利用者の残存能力は、介護ソフト内に記録を残すほか、口頭等でも職員間で情報共有を行い、生活動作の継続が心身機能の維持に繋がるような支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	定期的にあセスメントを行い、利用者の最新の情報を職員間で共有し、自分の力を最大限に発揮して生活出来るように支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者の残存機能を最大限活用したケアを行い、出来ることを奪わないようなケアを行っている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	フェイスシートを基にホームでもアセスメントを行い、楽しみや役割について把握している。	/	/	/	日々の暮らしの中で、利用者は洗濯物たたみやテーブル拭き、下膳などの役割を担うことができている。重度化や認知症の進行に伴い、できることが少なくなってきたが、職員は利用者ができることを見つけて、手の届く範囲のテーブル拭きやタオルたたみなどの役割を担ってもらい、少しでも自信や張り合いを持ちながら生活を送れるような支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カンファレンス時に、職員間で話し合い取り組みを行っている。	○	-	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ケアプランでお洒落が好きな人に対する取り組みを記載している。				毎朝、自分で身だしなみを整え、化粧をする利用者もいる。電気シェーバーを使用して、自分でひげ剃りをする利用者もあり、居室内で整容を整えることができるような環境づくりをしている。定期的に、訪問理容の来訪があり、好みの髪型や身だしなみを整えるなどの清潔保持に努めている。また、重度な利用者にも、メリハリのある生活が送れるように、朝と夕方に衣服を着替えてもらうなどの支援をしている。さらに、衣服の汚れや乱れなどが見られた場合には、利用者のプライドを傷つけないように、職員はさりげなく声をかけ、居室で着替えてもらうなどの対応をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	家族から聞き取りを行い、本人の意向に添った生活が送れるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	部屋担当職員が、本人の意向を聞き取り支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族の協力を得て、季節ごとに服の入れ替えを行い、季節感が感じられる服装にしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	起床時には、髪をくでといたり、食事中に服が汚れた時は居室に帰り衣類交換している。	○	-	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人に聞き取りを行い、望みが叶うように配慮している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族に「服を用意してもらい、本人が着たい服を着てもらえるよう配慮している。			○	
		h	職員の着衣は、清潔さを保つため、洗濯機で洗っている。	○	洗濯機は、利用者の利用しやすいように設置している。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者の嗜好の理解を行い、咀嚼して食べることの重要性を認識しており、食事形態の安易な低下は考えていない。				事業所の昼食と夕食は、栄養バランスの取れた業者の配食サービスを利用し、調理済みの主菜と副菜が届けられ、湯せんや盛り付けをするとともに、事業所内のキッチンで炊飯と汁物を作り、利用者に提供している。朝食は、事前に利用者と同様に、職員がパン食などの好みの食事を提供している。入居時に、利用者一人ひとりのアレルギーの有無や好き嫌いを把握し、業者に伝えている。利用者の状態に合わせて、業者にミキサー食に対応してもらうほか、事業所内で刻み食の対応をすることもできる。利用者は、自分で使用した食器を洗いやテーブル拭き、配膳などができることを手伝ってもらっている。また、行事食として、お花見弁当や誕生日ケーキを用意したり、たこ焼きなどのホットプレートで調理するメニューを取り入れたりするなど、利用者にとって、食事が楽しみとなるよう工夫をしている。食器類は、2階ユニットは持ち込みをしている利用者が多いほか、1階ユニットの利用者も、使い慣れた使いやすい物を使用している。食事の際に、職員は見守りやサポートに専念し、利用者同士の時間帯に、各自で用意した食事を摂っている。さらに、キッチンとリビングは1つのフロアにあり、利用者は調理の音や匂いなどを感じることもできる。加えて、献立は業者の栄養士が作成しているほか、定期的に、職員間でも食事の話し合いをしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	後片付けは、声掛けして一緒にするようにしている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	後片付けは、一緒に出来ているが、調理・盛り付けは出来ない。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前に家族から聞き取りを行っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	△	誕生日などのイベント時は出来ているが、普段の食事は出来ない。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	目で見て食欲の出るメニューを考えている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	出来ている利用者施設のものを使用している利用者がある。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒に食べてはいるが、食事介助の利用者に寄り添い見守りを行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	キッチンで調理しており、料理している音や匂いを感じる環境です。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一日の摂取量・水分量が分かるように記録しており、必要時には栄養補助食品等を用いて体調管理を行っている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	一日の摂取量・水分量が分かるように記録しており、必要時には栄養補助食品等を用いて体調管理を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員間での話し合いの場は、定期的に持つようになっている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用具は毎日、ハイター消毒しており、食材は冷蔵庫で保管し、毎日、買い物に行き、大量買わないようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	看護師が定期的に指導している。				看護師等の指導があり、職員は口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、一人ひとりに合わせた歯ブラシやスポンジブラシなどの口腔ケア用品を使用して、利用者は口腔ケアを実施している。中には、気分によって、職員が口腔ケアのサポートをしたり、口腔内の確認をしたりするのをためらう利用者があるものの、職員は時間を代えて声をかけるなどの工夫を行い、定期的に、全ての利用者の口腔内の状態を確認している。また、異常が見られた場合には、家族に報告するとともに、希望する場合には訪問歯科診療に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食事毎に口腔ケアを行っており、口の健康状態の把握に努めている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的に訪問歯科の往診があり、歯科衛生士からの助言も得ている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯の手入れが自立されている利用者も職員が毎回、付き添って支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	食事毎に口腔ケアを行っており、口の健康状態の把握に努めている。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	オムツの使用が身体機能の低下の要因に繋がっていることは理解しているが、オムツ外しに移行出来ない。				事業所では、トイレで利用者が排泄できることを基本として、可能な限り、おむつやパッドなどの排泄用品の使用に頼りすぎない支援に努めている。重度化や高齢化に伴い、中には常時おむつを使用している利用者もいる。また、排泄パターンを把握して、職員がタイミングを合わせたこまめな声かけやトイレ誘導をすることにより、おむつから紙パンツの使用に変更できた利用者もいる。さらに、職員は排泄ケアの研修で学ぶとともに、日頃から適切なケアを実践するほか、状態に合わせて、適切な排泄用品の使用などを検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	水分不足や腹圧が上手くかけられないということは理解しているが、なかなか下剤に頼るだけのケアになっている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	概ね、把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	△	オムツから紙パンツへの移行した利用者もおり、脱オムツの可能性は常に検討している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	カンファレンス時に職員間で話し合いを持っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	入所時に排泄パターンの把握に努め、早め早めの対応をとっているが、本人が拒否することも多く、失敗することも多い。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	現在は、日中と夜間帯で考えており、家族と相談して決めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	利用者の体調やその時の様態で使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	毎日のラジオ体操を行い、便秘症の利用者は乳製品を多く摂ってもらう等の工夫を個別に行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	現在、入浴時間や曜日の希望は叶えられていないが、入浴時間や回数、温度については好みを確認して実践している。	◎		○	週2回、利用者は入浴することができる。中には、入浴を拒む利用者もいるが、無理強いすることなく、時間帯や入浴日を代えて職員が声かけをするなどの工夫を行い、入浴してもらうことができている。また、利用者一人ひとりの入浴できる曜日を決めているが、その日の気分に合わせて、入浴の時間帯のほか、回数増などに柔軟に対応している。利用者の状態や希望に合わせて、シャワー浴や足浴などの対応をすることもある。さらに、好みの温度や湯船に浸かる時間などの希望に応じるとともに、冬至にゆず湯にするなど、利用者がリラックスをしながら、楽しみのある入浴ができるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	安全に配慮し、本人のペースで入浴していただけるように、ゆっくり入ってね等の声掛けを行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	残存機能を活用した介護を行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒否する利用者は、無理強いせず、時間や入浴日を変更するなどして気持ちよく入浴出来るように工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前のバイタルチェックの確認と入浴後は水分補給を行っていただき、靴下は足が十分に乾いてから履いていただいている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日々の記録や夜勤者からの引継ぎを基に把握出来ている。	/	/	/	入居前から継続して、睡眠導入剤や安定剤を半数近くの利用者が服用しているが、主治医と相談しながら、必要以上の服薬になっていないかなどの確認を行うとともに、日中の過ごし方や職員の対応の工夫をするなど、利用者が夜間に安眠できるような総合的な支援に努めている。また、利用者に応じて、日中にもベッドで休息をとれるような対応もしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜が怖い利用者がおられ、安心していただけるように日中の職員から安心して過ごしていただけるような声掛けやレクリエーションを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	医師と連携し、助言を得ながら対応しており、薬は屯用で使用している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	日中でもベッドで休める時間を個別に検討しており、実践している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者が自分の意志で家族と話がしたいと訴えた時は、職員が間に入って電話出来ている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	カンファレンスで家族の意向や利用者の意向が確認できている利用者は定期的に電話で会話したり家族から届いた手紙を職員が代読している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	本人から訴えがあれば、職員は常に支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた際は、職員が電話でお礼と利用者の反応を伝えるようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	実行している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を自分で保管するところまでは出来ていないが、お金を自分の意志で使用することは社会に参加出来ていることを理解出来ている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	馴染みの客として定期的に買い物に行くことが出来ている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族の希望もあり、お金の管理は職員が行っているが、買い物に出掛けた時は、現金を所持してもらい自分でレジに並んでお金を払っている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	使い道については本人・家族と話し合いの場を持つようになっている。定期的にお金の使い道を家族に確認していただいている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	同意得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	希望があり、就労支援施設にグループホーム御幸の社から通っている利用者がある。	○	/	○	事業所から、就労継続支援事業所に通所している利用者もあり、既存のサービスのみにとらわれることなく、利用者や家族の希望に応じて、柔軟に対応している。コロナ禍において、事業所では、家族とのガラス越しの面会に対応していたが、感染状況を見ながら、慎重に緩和していくことを予定している。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	施設は塀で囲ったりせず、民家の中に溶け込んだ作りになっており、気軽に挨拶できる関係になっている。	○	-	○	事業所は、周辺にある民家と調和した外観となっている。また、事業所には看板が設置され、家族や地域住民等から分かりやすくなっている。また、駐車場は道路沿いの限られたスペースのため、近隣住民の協力を得て、家族等の来訪者が駐車できる場所を確保している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	施設全体が家庭的な環境になっている。	○	-	○	リビングにあるカウンターキッチンから、職員は利用者の様子を見渡すことができる。また、利用者はソファやテーブル席など、思い思いの場所で過ごすことができる。さらに、廊下には各ユニットで工夫を凝らした季節を感じる写真のほか、利用者と職員が一緒に作成した工作や、利用者の好きな俳優のポスターなどが飾られている。加えて、玄関や廊下、リビングには空気清浄機が設置されているほか、換気も行われ、嫌な臭いも感じられず、快適な空間となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	常に清潔を保っており、掃除をしっかりと行っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じられる飾りつけを行い、快適に過ごせるよう工夫をしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファを配置したりすることで居場所の工夫を行っている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室には必ず使い慣れた家具などを配置している。	○	/	○	居室には、ベッドとエアコンが備え付けられている。利用者は、使い慣れた家具や、テレビなどの好みの物を持ち込むことができる。また、花が好きな利用者の居室に、職員が花を飾ったり、仏壇を置いたりするなど、利用者一人ひとりに応じた心地良い空間となるよう工夫されている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ミーティング時に職員間で話し合い、安全に過ごせるように工夫している。	/	/	/	○ 各ユニットのリビングには、日付や曜日の入れ替えできる大きなカレンダーが貼られ、利用者は日付を認識しやすくなっている。トイレの場所を矢印で示すなど、利用者が迷わないような工夫をしている。また、自分の居室を迷う利用者には、入り口に大きく名前を表示するとともに、見慣れてきた場合に、様子を見ながら表示を取り外すなど、利用者自身の残存能力を活かせるようにしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者の意向を確認し家族の協力を得て配慮している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることなく済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	職員間で定期的に利用者のストレス等について話し合いを行っている。また、地域と協力して鍵をかけない施設を目指している。	x	-	△	△ 玄関と玄関横にある事務所の入り口は、常時電子ロックの施錠が行われている。各ユニットの出入り口は解放され、ユニット間を行き来する利用者もいる。また、利用者の外出を察知した場合には、職員が声をかけたり、一緒に屋外に出て、散歩をしたりするなど、気持ちが落ち着くような対応をしている。さらに、建物の構造上もあるが、常時玄関の施錠をしていることを職員間で慎重に検討を重ねてきており、現在も、職員と利用者が一緒に中庭にいる場合などに、玄関を開放する時間を設けるようにしている。玄関の施錠が常態化された認識とならないように、職員間のほか、家族を交えて継続した話し合いが行われることを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	x	現在は出来ないが、前向きに取り組んでいこうと職員と話し合いを持つとしている。家族様に対しても利用者様の現状を説明し、鍵が外せない理由を説明している。	/	/	/	
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前にフェイスシートの確認や聞き取り調査で可能な限り把握出来ている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	職員は常に利用者の状態を観察しており、利用者の変化に気が付けている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護ステーションに報告し、必要に応じて訪問看護から主治医に連絡している。直接、主治医から指示が来ることもある。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所前の受診状況を確認し、本人・家族が希望する病院を確認し、御幸の社の医療体制を説明した上で家族様に決めて頂いている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入所前の受診状況を確認し、本人・家族が希望する病院を確認し、御幸の社の医療体制を説明した上で家族様に決めて頂いている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の意見を聞ける話し合いを行っている。	○	受診時は必ず、家族様に報告をし、結果も報告している。可能な限り病院受診は家族の方にも同行していただけるように説明している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	日頃より、緊急時のフェイスシートを作成しており、速やかに情報提供が出来る仕組みを作っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	必要な情報は病院に提供しており、こちらからも定期的に病院に連絡を入れるなどしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	電話、FAXなどを用いて情報のやり取りを行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	訪問看護との連絡は24時間体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日頃から利用者の状態を注意深く観察しており、バイタルは毎日測定している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	利用者ごとに薬の説明を保管し、職員がいつでも簡単に確認出来るようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬時は、必ず職員2名で確認している。また、飲み忘れの場合も考えて空き袋を一定期間保管している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	体調に変化が見られた時は訪問看護ステーションや医師に相談するようになっている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	身近な存在である職員からの報告を基に管理者・看護師・ケアマネが家族との話し合いに参加して、意向確認を行っている。				事業所では、「看取り対応」などの指針を整備しているが、近年看取り介護は実施しておらず、利用者の状態の変化や重度化した場合には、病院へ転院をしている。現在、重度化等に伴い、事業所での看取り介護を希望する利用者があり、訪問調査の数日後に、主治医と家族を交えて話し合う場を設け、方針決定を予定している。日頃から、事業所は協力機関の医師や訪問看護と連携が図られていることもあり、今後は看取り介護の体制整備に向けて、訪問看護と看取りの資料を作成するほか、職員への研修や指導を予定している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	関係機関で情報を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	行っている。現状では協力医療機関の体制から看取りを行っておらず、終末期には次の住み家を探している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	カンファレンス時に施設の対応について説明し、理解を得るようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を固めながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	当施設では対応が困難であるために、必要な支援を行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族には、いつでも相談できる事を伝え、意志が変わっても良いことを伝えている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症マニュアルを基に定期的に学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルは存在しているが、感染症が発生した時に速やかに取り組めるよう、今後ミーティング時に徹底していきたい。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	保健所から定期的に最新情報を入手している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	保健所から定期的に最新情報を入手している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	定期的に利用者の様子を家族に伝えるようにしている。	/	/	/	以前実施していた家族を招待した行事は、コロナ禍において、開催を中止している。家族との面会は、玄関でのガラス越しでの対応となっている。新型コロナウイルス感染症の5類移行もあり、家族から面会や外出の希望も寄せられているため、管理者は、「外泊などの家族との外出支援のほか、家族が参加できる行事の開催を再開させたいと考えている。また、日頃から管理者は、家族から意見や要望を伝えたり、相談したりしやすく、コミュニケーションを大切にしており、こまめに電話連絡等で利用者の様子を伝えている。以前は、写真を掲載した事業所便りを発行することができていたが、ここ数年は発行を中断していたため、再発行に向けて、職員間で検討することを期待したい。利用者家族等アンケートの結果から、職員の入退職や運営上の出来事などの情報が十分に伝わっていないことが窺えるため、家族の来訪時に運営上の出来事を伝えたり、運営推進会議や事業所便り等を活用して、職員の入退職をお知らせしたりするなど、周知方法を職員間で検討することも期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	現在は、コロナで面会等は中止にしているが、利用者の様子を定期的に伝えている。また、希望する家族には越後の面会を実施している。	x	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	家族からの依頼だけではなく、ホームから積極的に家族とコミュニケーションを取るようになっている。	○	/	△	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入所前から家族には認知症の理解を働きかけており、利用者の気持ちに寄り添っていただくようお願いしています。定期的な面会を行っていただくために、衣類の交換は季節ごとに行っています。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事のお知らせや担当職員の退職や新しい職員が担当になった時等は家族に連絡しています。	x	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	転倒などのリスクを説明した上で、これから一緒に生活していく中で注意する点等の把握に努め危険因子を取り除いていく作業を行うことを説明する。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	日頃から何でも相談していただけるような関係性を全職員で築いています。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	丁寧な説明を心掛けています。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	施設を移らなければならない時は、御幸の社から、用者・家族の要望を聞き、家屋の負担にならないように納得のいく転居先を提示出来るように話し合いを持っています。	/	/	/	
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開かれた施設を目指し、御幸の社について説明し、理解を得ており、近隣住民との関係も良好である。	/	-	/	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	コロナで地域行事には参加出来ないが、消防訓練等、地域と連携して実施している。	/	-	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	交番勤務の警察官始め、通りすがりに気軽に挨拶が出来る関係性を築けている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナの影響で近隣の人達が気を遣ってくださり、今年はイベントもなく来ていただけていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらおうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	気軽に声を掛け合う、お付き合いをさせて頂いている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	x	コロナでボランティアの受け家を中止している。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域資源を活用している利用者もいるが、十分生かし切れていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	5月から地域の方々や利用者 家族をお呼びして開催する方向で準備している。	×	/	△	運営推進会議は、町内会長や民生委員、区長、市行政などの参加を得て開催をしている。コロナ禍において、集合形式等の会議は実施することができておらず、書面開催等においても、前もって会議の参加メンバーに意見を聞いたり、利用者の様子や出された意見の回答などの会議録を参加メンバーや家族に送付したりするなど、状況の変化があっても、会議の開催が継続されることを期待したい。管理者は、次回の運営推進会議を集合形式の開催を考慮しており、感染状況に配慮をしながら、準備を進めることを予定している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	×	会議の結果は、議事録を作成し松山市介護保険課に提出する予定である。それに合わせて、目標達成計画等についても報告して行きます。	/	-	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	運営会議時に次回の予定を報告し、開催時間等についても参加者の皆様の意見を取り入れながら柔軟に運営していきます。	/	/	-	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	地域の人たちに伝える工夫や努力を行わないといけない。	×	-	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	/	/	/	法人の代表者は、日頃から頻りに事業所に来訪し、管理者や職員とコミュニケーションを図っていることもあり、管理者等は気軽に相談できると感じている。また、代表者は資格手当を支給するなど、職員が待遇面においても安心して意欲を持ちながら働くことができるような職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	個人では行えている場面も見受けられるが計画性を持ってスキルアップが行っていない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	労働意欲が湧くような労働環境の整備に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	包括支援センターの勉強会に参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	代表は様々な場面で対応してくださっている。	○	-	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	ミーティング時に高齢者虐待の話を毎回、管理者が行っている。	/	/	○	ミーティング等を活用して、管理者は職員に対して、虐待防止や不適切なケアにあたる言動などを職員に説明するとともに、日々のケアを振り返る時間を設けている。また、管理者は不適切な行為に繋がることのないように、職員のストレスや様子を気にかけて声かけをするほか、日頃から職員の相談に応じたり、話を聞いたりするよう努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員と寄り添い話を聞く場を設けるように努力している。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	研修で学んでいる。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的にミーティングを実施しており、その中で身体拘束について話し合っている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	例を上げて、ミーティング時に行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	行えている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	手作りのパンフレットを作成し、利用者・家族様に説明している。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターを通して司法書士の先生と連携を図っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時対応マニュアルを作成し、職員に定期的に勉強会を行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	看護師、訪問看護ステーションと連携を図り、看護スタッフから定期的な指導を受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	職員が危ないと感じた事は、ヒヤリハットを活用し、重大事故に繋がらないようにしている。また、職員間の周知徹底の部分においては、ペーパーだけでなく、タブレットを有効活用している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	月1回のミーティング時に職員間で話し合いの場を持ち、先月の事故やヒヤリハットについて検討するようにしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルは、必要に応じてミーティング時に職員で話し合いの場を持っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	そうした事実があれば、速やかに対応致します。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	ゴミ出しの件で市役所に苦情があり、市の担当者から問い合わせがありました。この時は、管理者が市役所に向き説明しました。このケースでは、事実でないことを理解してもらいました。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	個別に対応していますが、前例がありません。	○		○	出勤時に、管理者は必ず全ての利用者への声かけを心がけ、意見や要望を聞くようにしている。家族には、日頃から職員等がコミュニケーションをこまめに図ることで、意見や要望を伝えてもらうなど、信頼関係づくりに努めている。また、苦情対応マニュアルを整備し、苦情等の出された意見を記録に残すとともに、迅速に対応できる体制を整えている。さらに、管理者は現場で職員と一緒に業務に従事することもあり、職員から意見や提案を聞き、より良いサービスの提供に繋げている。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書に記載しています。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表には良くして頂いています。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	出勤者には、毎日声を掛けるようにしています。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	取り組んでいる。				コロナ禍において、集合形式等の運営推進会議は実施されておらず、サービスの評価結果や目標達成計画を会議の参加メンバーや家族に伝えられていない状況となっている。今後は、集合形式の運営推進会議の再開に合わせて、評価結果や目標達成計画を報告するとともに、目標達成計画の取り組みの実施状況や経過を伝えたり、目標達成への取り組み状況のモニターを、参加メンバーや家族への協力を呼びかけて、意見をもらったりするなど、家族に理解が得られるような周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	人材確保は困難である。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	今後の課題である。	×	-	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	今後の課題である。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	地域の防災班の協力のもと災害マニュアル・マップを作成し、定期的に見直している。	/	/	/	法人・事業所として、災害マニュアル等を整備するとともに、避難訓練を実施している。直近で実施した事業所の避難訓練には、近隣住民の参加協力もあり、訓練の様子を見てもらうとともに、避難の課題などを話し合うことができた。管理者は、近隣住民から「何かあれば声をかけてほしい」と言われるなど、災害発生時の協力体制も整えている。今後も、合同訓練の実施や具体的な協力内容の話し合いを重ねながら、さらなる協力体制の構築が期待される。利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、家族に避難訓練への参加協力を呼びかけたり、事業所便り等を活用して避難訓練の様子を伝えたり、事業所内に訓練の様子の写真を貼って周知するなど、家族等への安心安全な取り組みが理解してもらえるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	現在の訓練は、決まった時間でのみ行っており、今後は様々な時間を想定した訓練を行う予定である。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	法人と協力して定期的に点検を行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の代表の方と定期的に話し合いを行い、緊急時の協力の要請を行っている。	×	-	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の行事に参加したり、包括支援センターの勉強会に参加して知識を身に付けている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	これから地域の方達と協力して認知症の方の接し方等を公民館等で地域に向けて発信していく予定です。これまで通り地域の皆さんの役に立てるように努めたいと思います。	/	/	/	事業所の前を通りかかった地域住民等が、認知症等の相談に訪れたり、近隣住民から事業所利用の相談が寄せられることもあり、管理者等はパンフレットを渡すとともに、快く相談に応じている。コロナ禍において、地域のイベントなどは中止されているが、市行政や地域包括支援センター等と連携を図りながら、良好な関係を築けるよう努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	困ってグループホームに訪ねて来られる地域の方の相談に乗っている。	/	-	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	現在は行っていないが、運営会議等で情報発信し、ホームを開放して地域の交流の場としていきたいと思っています。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	社会福祉協議会等から依頼があれば、積極的に受け入れたいと考えている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	現在は、地域等の活動に参加出来ていないが、これからは積極的に外部に向けて情報を発信していきたいと思っています。	/	/	○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 4 月 18 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 8名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870102153
事業所名	グループホーム御幸の杜
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏名	古寺 正洋
自己評価作成日	令和 5 年 4 月 12 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1.思いやり優しく親切にします。 2.明るく楽しく仲良くします。 3.心のやすらぎが得られる</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①施設する時間を減らし、入居者様にとって開放的な暮らしが送れるようにする。→職員の見守りが可能な時は、散歩や庭先での草花の手入れ時に施設せず以外からの空気を取り入れられている。 ②コロナ禍で家族との交流は、十分に行うことが出来ず、利用者様には寂しい思いをさせてしまいましたが、外出行事が出来ませんでした。施設の中で利用者を中心としたレクリエーションを実施しました。 ③毎月、1Fと2Fのミーティングの開催は出来ているが、施設全体でのミーティングの開催は出来ていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内城北部の国道から少し入った住宅街に事業所は立地し、周辺にある民家と調和した外観となっている。事業所には分かりやすい看板が設置され、通行人が事業所に立ち寄り、相談を受けたこともある。また、法人の代表者は地域との良好な関係を構築し、事業所の避難訓練には近隣住民の参加協力があり、避難の課題などを話し合うとともに、災害発生時等に、管理者は近隣住民から「何かあれば、声をかけてほしい」と言われるなどの協力体制も整えている。職員の入れ替わりの多い時期もあったが、職員は「代表者や管理者がいつでも気にかけてくれて相談しやすいと感じており、安心して意欲を持ちながら働くことができています。中には、長年入居している利用者もおも、高齢化等に伴い、状態の変化もあるものの、好きなことを継続しながら、職員は利用者が心地良いと感じ、自分のペースで生活を送れるよう心がけたサービス提供に努めている。</p>
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	ケアマネが中心となり、ケアプラン更新時等に直接、利用者から聞き取りを行ったり、毎月のミーティング時に職員から利用者の思いを確認したりするなどしている。	○	/	○	管理者と職員は、利用者や家族から、「どのように暮らしていきたいか」などの思いや意向を聞くとともに、出された意見等を介護計画の目標やサービス内容に反映させている。また、意向を伝えることが困難な利用者には、家族のほか、今まで関わってきた関係者等から、生活歴や今までの暮らし方、好きなことなどを聞き取ったり、確認をしたりしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日頃より、自分が利用者の立場だったら・・・という思いで検討するように職員間で話し合っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	十分ではないと思うが、ケアプラン送付時に家族様に意見を聞くようにしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプランを活用し、職員が共通認識を持てるようにしている。記録はタブレットを活用して記録の時間を短縮している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	日頃より、自分が利用者の立場だったら・・・という思いで検討するように職員間で話し合っているが、職員の都合が優先される。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に希望・要望等を伺い、安心して生活して頂けるよう工夫している。	/	/	○	入居前に、管理者は利用者や家族と面談を行い、今までの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりなどの聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員等から、サービス利用に至るまでの経過や利用者の状況などの情報を得ている。また、聞き取った情報は、利用者毎の情報シートに記載し、職員間で情報を共有している。さらに、日々の生活の中で、新たに把握した情報を追記するとともに、定期的に、ユニットリーダーがシートを情報を確認して更新をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入所前に看護師とケアマネが面会し、利用者・家族より聞き取りを行っている。入所してからも定期的に職員と協力して確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	毎日の記録から把握するようにしており、スタッフ間で改善すべき点があれば、集まれる職員だけで話し合い、直ぐに対応するようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	本人の視点で物事を考えるようにしているが、どうしても職員目線で考えてしまう。	/	/	○	把握した情報をもとに、「利用者本人が何を求めている、何が必要なか」を本人の立場に立ち、職員間で検討をしている。意向を表すことが困難な利用者も、チームで話し合うことで、職員の視点が偏らないよう努めている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	本人の視点で物事を考えるようにしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人の意向が十分に反映されない事が、稀にある。	/	/	/	各ユニットの計画作成担当者が、利用者や家族から意見や要望を聞くほか、月1回ユニット毎に実施するミーティングの中で話し合い、意見やアイデアを反映しながら介護計画の原案を作成し、介護支援専門員が確認をしている。また、介護計画の更新時にも、家族の意見を聞くとともに、記録に残すことができています。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族との関係が良好で意向など必ず確認するようにしている。	○	/	/	
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	記録できている時と出来ない時がある。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	個別に記録を行っているが、工夫やアイデアを記録できていない時がある。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	居室担当者を中心として理解、共有が出来ている。	/	/	/	○ 利用者一人ひとりの介護記録等を職員がいつでも確認できる場所に配置するとともに、職員が担当する利用者等の介護計画の課題やサービス内容の把握をしている。事業所には介護ソフトが導入され、タブレット等を活用して、介護計画に沿ったサービス内容の実施の有無などを記録に残し、職員間の情報共有や確認をしやすいようになっている。管理者は、「サービスの実施状況や利用者の様子などの詳細な記録が残っていない」と感じていることもあり、今後は記録方法の勉強会を実施したり、記載内容を職員間で話し合ったりするなど、より充実した記録が残ることを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	職員間での状況確認は出来ているが、記録に残せていない時がある。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	出来ている。	/	/	/	○ 介護計画は、6か月に1回を基本として、見直しをしている。月1回、利用者毎の担当職員を中心に、他の職員の意見を聞きながら、利用者の現状確認を行い、モニタリングを実施している。また、利用者の状態に変化が生じた場合には、利用者や家族等を交えて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	全員分の確認は行えていない。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	見直しを行い、プラン変更している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月のミーティングを行い、緊急時はリーダー・ケアマネ・管理者・参加できる職員で開催している。	/	/	/	○ ユニット毎に、月1回ミーティングを行い、利用者の現状や課題などを話し合うとともに、職員間で情報を共有している。会議には、なるべく多くの職員が参加できるように、事前に開催日時を調整するなどの配慮をしている。また、会議に参加できなかった職員は、タブレット内にある申し送り事項の欄のほか、会議録等を確認し、職員間で共有をしている。さらに、早急に検討すべき事案は、その日出勤職員で話し合うとともに、話し合った内容を記録に残し、他の職員は記録を確認するほか、口頭でも伝達をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員が自由に発言できるように、司会のケアマネが配慮している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるように開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	開催日時は事前に職員に周知し、可能な限り全てのスタッフが参加出来るようにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	管理者・ケアマネが参加しての朝・夕方の引継ぎを行い、必要な情報は口頭・引継ぎノート・日誌を活用し、全スタッフに伝わるように工夫している。	/	/	/	○ 日々、朝夕の申し送りを実施し、必要事項をタブレットと口頭で確認をしている。また、職員は出勤時等に、タブレット内の伝達事項を確認すると、「既読」のチェックが入るようになっており、管理者は確認状況を確認するなど、伝達漏れがないようにしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	リーダーを中心に頑張っている。	/	/	/	○ 自己決定や選択ができる利用者には、毎日の着る衣服のほか、その日したいことなどを選んで決めてもらうように努めているが、管理者は、「一部、職員との都合で決めてしまっている部分もある」と感じている。また、花の好きな利用者や担当職員と一緒に居室に花を飾ったり、庭で水やりなどの花の世話をしたり、利用者に聞いて、好みの音楽をフロアで流すなど、様々な工夫をして、活き活きとした言動を引き出しながら、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	居室担当者が中心となり、自律に向けた取り組みを行っている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	ADLがほぼ、自立の利用者には出来ているが、介助がいる利用者には出来ている時と時間が足りずに出来ていない時がある。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	声掛けは出来ている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の表情や仕草から、職員が読み取り支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	ミーティング時に社長・管理者から利用者の人格を尊重し、人生の先輩として常に敬うように話をしており、職員も意識して業務に当たっている。	○	-	○	○ 日頃から、管理者は職員に対して、人権や尊厳などの周知徹底や理解促進に努めており、適切な言葉づかいのほか、「さん」付けをして利用者と呼ぶことができるようになってきている。管理者は、「利用者に対する言葉づかいの乱れが、職員間のチームワークの乱れに繋がる」と考えており、職員は利用者に対する尊厳の念を持ちながら、適切な支援に努めている。また、居室を利用者のプライバシーのある空間と認識し、入室時に職員はノックや声かけをしてから、入室することができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴は、可能な限り同性介護とし、排泄はバスタオル等を用いるなど、羞恥心に配慮したケアを行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への出入り時にはノックをし「失礼します」と声を掛けるようにしている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時に職員に教育している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	入所前にフェイスシートを参考にしている。足りない情報は家族様から聞き取りを行い把握している。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの性格や関係性を把握し、配席の考慮をしたり、トラブルが起これば早期に職員が間に入ったりするなどの対応をしている。中には、世話好きな利用者もあり、他の利用者へ励ましの声かけをするなど、孤立防止や利用者同士の良好な関係に力を発揮してもらうこともあり、職員は温かく見守りをしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	入所前にフェイスシートを参考にしたり、家族様から聞き取りを行ったりしているが、まだ全員分把握出来ていない。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	職員は世話好きな利用者のことを理解しており、一人で過ごすことが多い利用者に声を掛けてもらうなど、職員は助けてもらっている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者の周りには常に職員が存在があり、トラブルに発展しそう時は上手く職員が介入している。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所前にフェイスシートを参考にしている。足りない情報は家族様から聞き取りを行い把握している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族とは会っているが、友人や知人等とは会えていないが、家族から馴染みの場所の写真を持ってきてもらい、話を聞かせてもらっている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	利用者数名ではあるが、希望された利用者様が短時間でも散歩等に出掛けられるよう支援している。	△	-	○	コロナ禍において、以前のように外出できない日々が続いていたが、日頃から外気浴をしたり、庭に出て花の手入れをしたりするなど、少しでも屋外に出て、季節を感じながら、気分転換を図れるよう支援している。また、今年の春には、近隣にある川沿いの桜を眺めながら、お弁当を食べることができ、利用者に喜ばれている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ禍で面会を禁止したこともあり、家族や地域の方達との交流はほとんどなく、消防訓練等で地域の応援を頼んだりしたことである。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	家族と離れて暮らす寂しさを理解することや、制約された施設での不自由な生活を理解し、安心して落ち着きのある生活を送って頂けるように支援している。	/	/	/	利用者一人ひとりのできることやできそうなことを記録や話し合いをして把握し、職員は手や口を出し過ぎず、できることやできそうなことは利用者自身にしてみせ、見守りやサポートに徹している。また、利用者の残存能力は、介護ソフト内に記録を残すほか、口頭等でも職員間で情報共有を行い、生活動作の継続が心身機能の維持に繋がるような支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	定期的にあセスメントを行い、利用者の最新の情報を職員間で共有し、自分の力を最大限に発揮して生活出来るように支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者の残存機能を最大限活用したケアを行い、出来ることを奪わないようなケアを行っている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	フェイスシートを基にホームでもアセスメントを行い、楽しみや役割について把握している。	/	/	/	日々の暮らしの中で、利用者は洗濯物たたみやテーブル拭き、下膳などの役割を担うことができている。重度化や認知症の進行に伴い、できることが少なくなってきたが、職員は利用者ができることを見つけて、手の届く範囲のテーブル拭きやタオルたたみなどの役割を担ってもらい、少しでも自信や張り合いを持ちながら生活を送れるような支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カンファレンス時に、職員間で話し合い取り組みを行っている。	○	-	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ケアプランでお洒落が好きな人に対する取り組みを記載している。				毎朝、自分で身だしなみを整え、化粧をする利用者もいる。電気シェーバーを使用して、自分でひげ剃りをする利用者もあり、居室内で整容を整えることができるような環境づくりをしている。定期的に、訪問理容の来訪があり、好みの髪型や身だしなみを整えるなどの清潔保持に努めている。また、重度な利用者にも、メリハリのある生活が送れるように、朝と夕方に衣服を着替えてもらうなどの支援をしている。さらに、衣服の汚れや乱れなどが見られた場合には、利用者のプライドを傷つけないように、職員はさりげなく声をかけ、居室で着替えてもらうなどの対応をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	家族から聞き取りを行い、本人の意向に添った生活が送れるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	部屋担当職員が、本人の意向を聞き取り支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族の協力を得て、季節ごとに服の入れ替えを行い、季節感が感じられる服装にしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	起床時には、髪をくでといたり、食事中に服が汚れた時は居室に帰り衣類交換している。	○	-	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人に聞き取りを行い、望みが叶うように配慮している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族に「服を用意してもらい、本人が着たい服を着てもらえるよう配慮している。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者の嗜好の理解を行い、咀嚼して食べることの重要性を認識しており、食事形態の安易な低下は考えていない。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	後片付けは、声掛けして一緒にするようにしている。また、好みを確認し、食べたい物を選ぶようにしている。				○		
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	後片付けは、一緒に出来ているが、調理・盛り付けは出来ない。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前に家族から聞き取りを行っている。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節感のある食事を提供するようにしている。				○		
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	目で見て食欲の出るメニューを考えている。						
g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入所前に使っていたものを使用するようにしている。				○		
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒に食べてはいないが、食事介助の利用者に寄り添い見守りを行っている。				△		
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	キッチンで調理しており、料理している音や匂いを感じる環境です。			○	○		
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一日の摂取量・水分量が分かるように記録しており、必要時には栄養補助食品等を用いて体調管理を行っている。						
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	一日の摂取量・水分量が分かるように記録しており、必要時には栄養補助食品等を用いて体調管理を行っている。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員間での話し合いの場は、定期的に持つようにしている。				○		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用具は毎日、ハイター消毒しており、食材は冷蔵庫で保管し、毎日、買い物に行き、大量買わないようにしている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	看護師が定期的に指導している。	/	/	/	看護師等の指導があり、職員は口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、一人ひとりに合わせた歯ブラシやスポンジブラシなどの口腔ケア用品を使用して、利用者は口腔ケアを実施している。中には、気分によって、職員が口腔ケアのサポートをしたり、口腔内の確認をしたりするのをためらう利用者があるものの、職員は時間を代えて声をかけるなどの工夫を行い、定期的に、全ての利用者の口腔内の状態を確認している。また、異常が見られた場合には、家族に報告するとともに、希望する場合には訪問歯科診療に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食事毎に口腔ケアを行っており、口の健康状態の把握に努めている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的に訪問歯科の往診があり、歯科衛生士からの助言も得ている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯の手入れが自立されている利用者も職員が毎回、付き添って支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	食事毎に口腔ケアを行っており、口の健康状態の把握に努めている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	オムツの使用が身体機能の低下の要因に繋がっていることは理解している。オムツから紙パンツ、布パンツへと移行する取り組みを行っている。	/	/	/	事業所では、トイレで利用者が排泄できることを基本として、可能な限り、おむつやパッドなどの排泄用品の使用に頼りすぎない支援に努めている。重度化や高齢化に伴い、中には常時おむつを使用している利用者もいる。また、排泄パターンを把握して、職員がタイミングを合わせたこまめな声かけやトイレ誘導をすることにより、おむつから紙パンツの使用に変更できた利用者もいる。さらに、職員は排泄ケアの研修で学ぶとともに、日頃から適切なケアを実践するほか、状態に合わせて、適切な排泄用品の使用などを検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排泄ケアの研修会に参加し、水分を多く摂ったり、食物繊維を多く摂るなどの取り組みを行っている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を参考に排便の間隔に努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	オムツから紙パンツへの移行した利用者もおり、脱オムツの可能性は常に検討している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	カンファレンス時に職員間で話し合いを持っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	入所時に排泄パターンの把握に努め、早め早めの対応をとっているが、本人が拒否することも多く、失敗することも多い。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	現在は、日中と夜間帯で考えており、家族と相談して決めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	利用者の体調やその時の様態で使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	毎日のラジオ体操を行い、便秘症の利用者は乳製品を多く摂ってもらう等の工夫を個別に行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	現在、入浴時間や曜日の希望は叶えられていないが、入浴時間や回数、温度については好みを確認して実践している。	◎	/	○	週2回、利用者は入浴することができる。中には、入浴を拒む利用者もいるが、無理強いすることなく、時間帯や入浴日を代えて職員が声かけをするなどの工夫を行い、入浴してもらうことができている。また、利用者一人ひとりの入浴できる曜日を決めているが、その日の気分に合わせて、入浴の時間帯のほか、回数増などに柔軟に対応している。利用者の状態や希望に合わせて、シャワー浴や足浴などの対応をすることもある。さらに、好みの温度や湯船に浸かる時間などの希望に応じるとともに、冬至にゆず湯にするなど、利用者がリラックスをしながら、楽しみのある入浴ができるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	安全に配慮し、本人のペースで入浴していただけるように、ゆっくり入ってね等の声掛けを行っている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	残存機能を活用した介護を行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒否する利用者は、無理強いせず、時間や入浴日を変更するなどして気持ちよく入浴出来るように工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前のバイタルチェックの確認と入浴後は水分補給を行っていただき、靴下は足が十分に乾いてから履いていただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日々の記録や夜勤者からの引継ぎを基に把握出来ている。	/	/	/	入居前から継続して、睡眠導入剤や安定剤を半数近くの利用者が服用しているが、主治医と相談しながら、必要以上の服薬になっていないかなどの確認を行うとともに、日中の過ごし方や職員の対応の工夫をするなど、利用者が夜間に安眠できるよう総合的な支援に努めている。また、利用者に応じて、日中にもベッドで休息をとれるような対応もしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜が怖い利用者がおられ、安心していただけるように日中の職員から安心して過ごしていただけるような声掛けやレクリエーションを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	医師と連携し、助言を得ながら対応しており、薬は屯用で使用している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	日中でもベッドで休める時間を個別に検討しており、実践している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者が自分の意志で家族と話がしたいと訴えた時は、職員が間に入って電話出来ている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	カンファレンスで家族の意向や利用者の意向が確認できている利用者は定期的に電話で会話したり家族から届いた手紙を職員が代読している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	本人から訴えがあれば、職員は常に支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた際は、職員が電話でお礼と利用者の反応を伝えるようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	実行している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を自分で保管するところまでは出来ていないが、お金を自分の意志で使用することは社会に参加出来ていることを理解出来ている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	馴染みの客として定期的に買い物に行くことが出来ている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族の希望もあり、お金の管理は職員が行っているが、買い物に出掛けた時は、現金を所持してもらい自分でレジに並んでお金を払っている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	使い道については本人・家族と話し合いの場を持つようになっている。定期的にお金の使い道を家族に確認していただいている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	同意得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	希望があり、就労支援施設にグループホーム御幸の社から通っている利用者がある。	○	/	○	事業所から、就労継続支援事業所に通所している利用者もあり、既存のサービスのみにとらわれることなく、利用者や家族の希望に応じて、柔軟に対応している。コロナ禍において、事業所では、家族とのガラス越しの面会に対応していたが、感染状況を見ながら、慎重に緩和していくことを予定している。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	施設は塙で囲ったりせず、民家の中に溶け込んだ作りになっており、気軽に挨拶できる関係になっている。	○	-	○	事業所は、周辺にある民家と調和した外観となっている。また、事業所には看板が設置され、家族や地域住民等から分かりやすくなっている。また、駐車場は道路沿いの限られたスペースのため、近隣住民の協力を得て、家族等の来訪者が駐車できる場所を確保している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じ、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	施設全体が家庭的な環境になっている。	○	-	○	リビングにあるカウンターキッチンから、職員は利用者の様子を見渡すことができる。また、利用者はソファやテーブル席など、思い思いの場所で過ごすことができている。さらに、廊下には各ユニットで工夫を凝らした季節を感じる写真のほか、利用者や職員と一緒に作成した工作や、利用者の好きな俳優のポスターなどが飾られている。加えて、玄関や廊下、リビングには空気清浄機が設置されているほか、換気も行われ、嫌な臭いも感じられず、快適な空間となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	常に清潔を保っており、掃除をしっかりと行っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じられる飾りつけを行い、快適に過ごせるよう工夫をしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファを配置したりすることで居場所の工夫を行っている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室には必ず使い慣れた家具などを配置している。	○	/	○	居室には、ベッドとエアコンが備え付けられている。利用者は、使い慣れた家具や、テレビなどの好みの物を持ち込むことができる。また、花が好きな利用者の居室に、職員が花を飾ったり、仏壇を置いたりするなど、利用者一人ひとりに応じた心地良い空間となるよう工夫されている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ミーティング時に職員間で話し合い、安全に過ごせるように工夫している。	/	/	/	○ 各ユニットのリビングには、日付や曜日の入れ替えできる大きなカレンダーが貼られ、利用者は日付を認識しやすくなっている。トイレの場所を矢印で示すなど、利用者が迷わないような工夫をしている。また、自分の居室を迷う利用者には、入り口に大きく名前を表示するとともに、見慣れてきた場合に、様子を見ながら表示を取り外すなど、利用者自身の残存能力を活かせるようにしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者の意向を確認し家族の協力を得て配慮している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられられない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	話し合っているが、職員のことを思っ下さったり、家族の安全面を考慮して実現出来ていない。	×	-	△	△ 玄関と玄関横にある事務所の入り口は、常時電子ロックの施錠が行われている。各ユニットの出入り口は解放され、ユニット間を行き来する利用者もいる。また、利用者の外出を察知した場合には、職員が声をかけたり、一緒に屋外に出て、散歩をしたりするなど、気持ちが落ち着くような対応をしている。さらに、建物の構造上もあるが、常時玄関の施錠をしていることを職員間で慎重に検討を重ねてきており、現在も、職員と利用者が一緒に中庭にいる場合などに、玄関を開放する時間を設けるようにしている。玄関の施錠が常態化された認識とならないように、職員間のほか、家族を交えて継続した話し合いが行われることを期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	出来ない。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前にフェイスシートの確認や聞き取り調査で可能な限り把握出来ている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	職員は常に利用者の状態を観察しており、利用者の変化に気が付けている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護ステーションに報告し、必要に応じて訪問看護から主治医に連絡している。直接、主治医から指示が来ることもある。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所前の受診状況を確認し、本人・家族が希望する病院を確認し、御幸の社の医療体制を説明した上で家族様に決めて頂いている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入所前の受診状況を確認し、本人・家族が希望する病院を確認し、御幸の社の医療体制を説明した上で家族様に決めて頂いている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診時は必ず、家族様に報告をし、結果も報告している。可能な限り病院受診は家族の方にも同行していただけるように説明している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	日頃より、緊急時のフェイスシートを作成しており、速やかに情報提供が出来る仕組みを作っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	必要な情報は病院に提供しており、こちらからも定期的に病院に連絡を入れるなどしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	電話、FAXなどを用いて情報のやり取りを行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	訪問看護との連絡は24時間体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日頃から利用者の状態を注意深く観察しており、バイタルは毎日測定している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	利用者ごとに薬の説明を保管し、職員がいつでも簡単に確認出来るようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬時は、必ず職員2名で確認している。また、飲み忘れの場合も考えて空き袋を一定期間保管している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	体調に変化が見られた時は訪問看護ステーションや医師に相談するようにしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	身近な存在である職員からの報告を基に管理者・看護師・ケアマネが家族との話し合いに参加して、意向確認を行っている。				事業所では、「看取り対応」などの指針を整備しているが、近年看取り介護は実施しておらず、利用者の状態の変化や重度化した場合には、病院へ転院をしている。現在、重度化等に伴い、事業所での看取り介護を希望する利用者があり、訪問調査の数日後に、主治医と家族を交えて話し合う場を設け、方針決定を予定している。日頃から、事業所は協力機関の医師や訪問看護と連携が図られていることもあり、今後は看取り介護の体制整備に向けて、訪問看護と看取りの資料を作成するほか、職員への研修や指導を予定している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	関係機関で情報を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	行っている。現状では協力医療機関の体制から看取りを行っておらず、終末期には次の住み家を探している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	カンファレンス時に施設の対応について説明し、理解を得るようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を固めながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	当施設では対応が困難であるために、必要な支援を行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族には、いつでも相談できる事を伝え、意志が変わっても良いことを伝えている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症マニュアルを基に定期的に学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルは存在しているが、感染症が発生した時に速やかに取り組めるよう、今後ミーティング時に徹底していきたい。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	保健所から定期的に最新情報を入手している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるように支援している。	○	保健所から定期的に最新情報を入手している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	定期的に利用者の様子を家族に伝えるようにしている。	/	/	/	以前実施していた家族を招待した行事は、コロナ禍において、開催を中止している。家族との面会は、玄関でのガラス越しでの対応となっている。新型コロナウイルス感染症の5類移行もあり、家族から面会や外出の希望も寄せられているため、管理者は、「外泊などの家族との外出支援のほか、家族が参加できる行事の開催を再開させたいと考えている。また、日頃から管理者は、家族から意見や要望を伝えたり、相談したりしやすいように、コミュニケーションを大切にしており、こまめに電話連絡等で利用者の様子を伝えている。以前は、写真を掲載した事業所便りを発行することができていたが、ここ数年は発行を中断していたため、再発行に向けて、職員間で検討することを期待したい。利用者家族等アンケートの結果から、職員の入退職や運営上の出来事などの情報が十分に伝わっていないことが窺えるため、家族の来訪時に運営上の出来事を伝えたり、運営推進会議や事業所便り等を活用して、職員の入退職をお知らせしたりするなど、周知方法を職員間で検討することも期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	現在は、コロナで面会等は中止にしているが、利用者の様子を定期的に伝えている。また、希望する家族には越後の面会を実施している。	×	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	家族からの依頼だけではなく、ホームから積極的に家族とコミュニケーションを取るようになっている。	○	/	△	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入所前から家族には認知症の理解を働きかけており、利用者の気持ちに寄り添っていただくようお願いしています。定期的な面会を行っていただくために、衣類の交換は季節ごとに行って頂いています。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事のお知らせや担当職員の退職や新しい職員が担当になった時等は家族に連絡しています。	×	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	転倒などのリスクを説明した上で、これから一緒に生活していく中で注意する点等の把握に努め危険因子を取り除いていく作業を行うことを説明する。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	日頃から何でも相談していただけるような関係性を全職員で築いています。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	丁寧な説明を心掛けています。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	施設を移らなければならない時は、御幸の社から、用者・家族の要望を聞き、家屋の負担にならないように納得のいく転居先を提示出来るように話し合いを持っています。	/	/	/	
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開かれた施設を目指し、御幸の社について説明し、理解を得ており、近隣住民との関係も良好である。	/	-	/	コロナ禍でほとんどの地域行事は中止され、地域住民と交流できる機会は減少している。日頃から、近隣住民とあいさつや会話を交わすなどの交流は継続している。また、訪問調査日の数日前に実施した事業所の避難訓練には近隣住民の参加協力もあり、訓練の様子を見てもらうとともに、避難の課題などを話し合うことができた。さらに、法人の代表者は、地域との良好な関係が築かれ、家族等の来訪時に、近隣住民が駐車スペースを提供してくれるなどの協力体制も図られている。また、地域住民や運営推進会議の参加メンバーに、外部評価の地域アンケートに協力してもらえるように、働きかけることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	コロナで地域行事には参加出来ないが、消防訓練等、地域と連携して実施している。	/	-	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	交番勤務の警察官始め、通りすがりに気軽に挨拶が出来る関係性を築けている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナの影響で近隣の人達が気を遣ってくださり、今年はイベントもなく来ていただけていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらおうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	気軽に声を掛け合う、お付き合いをさせて頂いている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナでボランティアの受け家を中止している。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域資源を活用している利用者もいるが、十分生かし切れていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	5月から地域の方々や利用者 家族をお呼びして開催する方向で準備している。	×	/	△	運営推進会議は、町内会長や民生委員、区長、市行政などの参加を得て開催をしている。コロナ禍において、集合形式等の会議は実施することができておらず、書面開催等においても、前もって会議の参加メンバーに意見を聞いたり、利用者の様子や出された意見の回答などの会議録を参加メンバーや家族に送付したりするなど、状況の変化があっても、会議の開催が継続されることを期待したい。管理者は、次回の運営推進会議を集合形式の開催を考えており、感染状況に配慮をしながら、準備を進めることを予定している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	×	会議の結果は、議事録を作成し松山市介護保険課に提出する予定である。それに合わせて、目標達成計画等についても報告して行きます。	/	-	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	運営会議時に次回の内容を報告し、開催時間等についても参加者の皆様の意見を取り入れながら柔軟に運営していきます。	/	/	-	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	地域の人たちに伝える工夫や努力を行わないといけない。	×	-	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	/	/	/	法人の代表者は、日頃から頻りに事業所に来訪し、管理者や職員とコミュニケーションを図っていることもあり、管理者等は気軽に相談できると感じている。また、代表者は資格手当を支給するなど、職員が待遇面においても安心して意欲を持ちながら働くことができるような職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	個人では行えている場面も見受けられるが計画性を持ってスキルアップが行っていない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	労働意欲が湧くような労働環境の整備に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	包括支援センターの勉強会に参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	代表は様々な場面で対応してくださっている。	○	-	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	ミーティング時に高齢者虐待の話を毎回、管理者が行っている。	/	/	○	ミーティング等を活用して、管理者は職員に対して、虐待防止や不適切なケアにあたる言動などを職員に説明するとともに、日々のケアを振り返る時間を設けている。また、管理者は不適切な行為に繋がることのないように、職員のストレスや様子を気にかけて声かけをするほか、日頃から職員の相談に応じたり、話を聞いたりするよう努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員と寄り添い話を聞く場を設けるように努力している。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	研修で学んでいる。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的ミーティングを実施しており、その中で身体拘束について話し合っている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	例を上げて、ミーティング時に行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	行えている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	手作りのパンフレットを作成し、利用者・家族様に説明している。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターを通して司法書士の先生と連携を図っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時対応マニュアルを作成し、職員に定期的に勉強会を行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	看護師、訪問看護ステーションと連携を図り、看護スタッフから定期的な指導を受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	職員が危ないと感じた事は、ヒヤリハットを活用し、重大事故に繋がらないようにしている。また、職員間の周知徹底の部分においては、ペーパーだけでなく、タブレットを有効活用している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	月1回のミーティング時に職員間で話し合いの場を持ち、先月の事故やヒヤリハットについて検討するようにしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルは、必要に応じてミーティング時に職員で話し合いの場を持っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	そうした事実があれば、速やかに対応致します。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	ゴミ出しの件で市役所に苦情があり、市の担当者から問い合わせがありました。この時は、管理者が市役所に向き説明しました。このケースでは、事実でないことを理解してもらいました。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	個別に対応していますが、前例がありません。	○		○	出勤時に、管理者は必ず全ての利用者への声かけを心がけ、意見や要望を聞くようにしている。家族には、日頃から職員等がコミュニケーションをこまめに図ることで、意見や要望を伝えてもらうなど、信頼関係づくりに努めている。また、苦情対応マニュアルを整備し、苦情等の出された意見を記録に残すとともに、迅速に対応できる体制を整えている。さらに、管理者は現場で職員と一緒に業務に従事することもあり、職員から意見や提案を聞き、より良いサービスの提供に繋げている。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書に記載しています。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表には良くして頂いています。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聞く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	出勤者には、毎日声を掛けるようにしています。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	取り組んでいる。				コロナ禍において、集合形式等の運営推進会議は実施されておらず、サービスの評価結果や目標達成計画を会議の参加メンバーや家族に伝えられていない状況となっている。今後は、集合形式の運営推進会議の再開に合わせて、評価結果や目標達成計画を報告するとともに、目標達成計画の取り組みの実施状況や経過を伝えたり、目標達成への取り組み状況のモニターを、参加メンバーや家族への協力を呼びかけて、意見をもらったりするなど、家族に理解が得られるような周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	人材確保は困難である。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	今後の課題である。	×	-	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	今後の課題である。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	地域の防災班の協力のもと災害マニュアル・マップを作成し、定期的に見直している。	/	/	/	法人・事業所として、災害マニュアル等を整備するとともに、避難訓練を実施している。直近で実施した事業所の避難訓練には、近隣住民の参加協力もあり、訓練の様子を見てもらうとともに、避難の課題などを話し合うことができた。管理者は、近隣住民から「何かあれば声をかけてほしい」と言われるなど、災害発生時の協力体制も整えている。今後も、合同訓練の実施や具体的な協力内容の話し合いを重ねながら、さらなる協力体制の構築が期待される。利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、家族に避難訓練への参加協力を呼びかけたり、事業所便り等を活用して避難訓練の様子を伝えたり、事業所内に訓練の様子の写真を貼って周知するなど、家族等への安心安全な取り組みが理解してもらえるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	定期的に出火元の場所を変えたり、日中や夜間を想定した消防訓練を行っている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	法人と協力して定期的な点検を行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の代表の方と定期的に話し合いを行い、緊急時の協力の要請を行っている。	×	-	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の行事に参加したり、包括支援センターの勉強会に参加して知識を身に付けている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	これから地域の方達と協力して認知症の方の接し方等を公民館等で地域に向けて発信していく予定です。これまで通り地域の皆さんの役に立てるように努めたいと思います。	/	/	/	事業所の前を通りかかった地域住民等が、認知症等の相談に訪れたり、近隣住民から事業所利用の相談が寄せられることもあり、管理者等はパンフレットを渡すとともに、快く相談に応じている。コロナ禍において、地域のイベントなどは中止されているが、市行政や地域包括支援センター等と連携を図りながら、良好な関係を築けるよう努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	困ってグループホームに訪ねて来られる地域の方の相談に乗っている。	/	-	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	現在は行っていないが、運営会議等で情報発信し、ホームを開放して地域の交流の場としていきたいと思っています。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	社会福祉協議会等から依頼があれば、積極的に受け入れたいと考えている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	現在は、地域等の活動に参加出来ていないが、これからは積極的に外部に向けて情報を発信していきたいと思っています。	/	/	○	